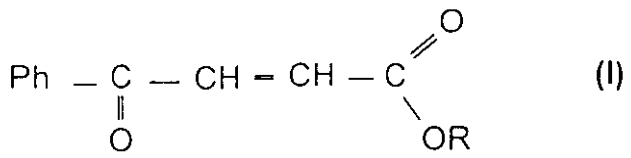
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

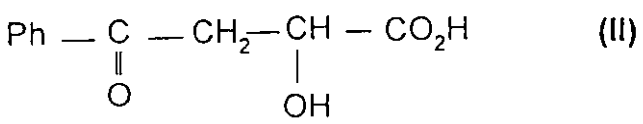
【公表番号】特表2004-528299(P2004-528299A)
【公表日】平成16年9月16日(2004.9.16)
【年通号数】公開・登録公報2004-036
【出願番号】特願2002-567219(P2002-567219)
【国際特許分類第７版】
　Ｃ０７Ｃ　67/327
　Ｃ０７Ｃ　69/533
【ＦＩ】
　Ｃ０７Ｃ　67/327
　Ｃ０７Ｃ　69/533

【手続補正書】
【提出日】平成17年2月25日(2005.2.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
　下式
【化１】



(I)

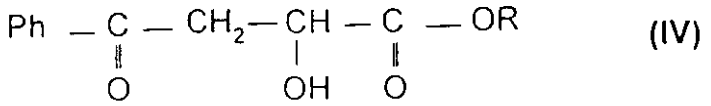
（上式中、Ｒは１～９個の炭素原子を含むアルキル基であり、Ｐｈはフェニル基である）のアルキルベンゾイルアクリレートの製造方法であって、反応を、中間体生成物を単離することなく同じ反応器内で酸性媒体中で行い、以下の工程
　２～８当量のアセトフェノンを１当量のグリオキシル酸と縮合させ下式(II)
【化２】



(II)

の化合物を得ること、

水／アセトフェノン混合物を除去すること、
過剰のアセトフェノンを除去すること、
強酸の存在下において、式(II)の化合物を式(III)
Ｒ－ＯＨ　(III)
（上式中、Ｒは１～９個の炭素原子を含むアルキル基である）
のアルコールによりエステル化し、中間体生成物を単離することなく下式
【化３】



(IV)

（上式中、Ｒ及びＰｈは上記と同じ意味を有する）
の化合物を得ること、
溶媒を加えること、
水、溶媒及び式(III)のアルコールで構成される混合物を除去すること、
水の共沸蒸留により式(IV)の化合物を脱水すること、
塩基水溶液により強酸を中和すること、
有機相をデカントし、濃縮すること、
式(I)の最終生成物を回収すること
を含む方法。
【請求項２】
１当量のグリオキシル酸を４当量のアセトフェノンと反応させることを特徴とする、請求項１記載の方法。
【請求項３】
１当量の当初のグリオキシル酸あたり２～１０当量のアルコールを反応させることを特徴とする、請求項１又は２に記載の方法。
【請求項４】
１当量の当初のグリオキシル酸あたり３当量のアルコールを反応させることを特徴とする、請求項１～３のいずれか１項に記載の方法。
【請求項５】
用いる式(III)のアルコールがエタノールであることを特徴とする、請求項１～４のいずれか１項に記載の方法。
【請求項６】
用いる強酸が硫酸であることを特徴とする、請求項１～５のいずれか１項に記載の方法。
【請求項７】
用いる共沸溶媒がトルエンであることを特徴とする、請求項１～６のいずれか１項に記載の方法。
【請求項８】
用いる塩基性水溶液が炭酸水素ナトリウムの水溶液であることを特徴とする、請求項１～７のいずれか１項に記載の方法。
【請求項９】
エチルベンゾイルアクリレートが製造されることを特徴とする、請求項１～８のいずれか１項に記載の方法。